

IAHR パネル（コンビーナー：水谷誠） 「Schleiermacher と諸宗教」について

IAHR Panel: Schleiermacher and Religions

水谷 誠
Makoto Mizutani

2005年3月24日(木)から30日(水)にかけて、東京高輪プリンスホテルで「第19回国際宗教学宗教史会議世界大会」(IAHR)が開催された。この大会において(3月28日月14時~16時、セッション Nr. 11Q)、「Schleiermacher と諸宗教」というテーマでパネルを組織し、ドイツ、韓国、日本から3名の研究発表者を迎えた。以下に掲載された論考はそこで発表されたものである。ドイツ、キール大学神学部シュライアマハー研究所所長ギュンター・メッケンシュトック氏(キール大学神学部教授)からは、シュライアマハーの宗教理論に内在しその理論の軸ともなっている「平和」について、韓国、韓南大学校教授チェ・シンハン氏(韓国解釈学会副会長)からは、韓国の伝統的宗教理解とシュライアマハーの宗教理論との親和性について、そして恵泉女学園大学教授川島堅二氏(『F・シュライアマハーにおける弁証法的思考の形成』本の風景社、2005年)からは、プロイセンにおける教会合同運動を主導したシュライアマハーのエキュメニズム理論についての発表がなされた。そしてそれらに対する包括的なコメントを関西学院大学名誉教授高森昭氏から受けた。

このパネルを機会にして、同志社大学神学部水谷研究室を事務局として「日本シュライアマハー協会」(Schleiermacher-Gesellschaft in Japan; <http://www1.doshisha.ac.jp/~sgjapan/index.html>)が設立された。今後、プロテスタント神学の領域だけでなく、きわめて多方面の領域で古典的と言える業績を残したシュライアマハーの思想について学際的な共同研究を志し、また若手研究者を育成していく環境が整うことになった。

なお、これは2004年度同志社大学学術奨励研究「シュライエルマッハーと諸宗教」の成果である。

[注] Schleiermacher の邦語表現は多様である。日本シュライアマハー協会設立呼びかけ人(高森昭・川島堅二・水谷誠)で「シュライアマハー」という呼称を今後統一して使うことを確認したが、学術奨励研究の主題にある「シュライエルマッハー」、IAHRにおける欧文表記「Schleiermacher」は統一される前のものである。